



札幌管区気象台 150年の歩み

札幌管区気象台とその業務②

観測から予報、そして地域防災へ・・・

観測を中心に始められた気象業務は、常に最新の科学技術を取り入れて、予報や防災気象情報の充実・高度化を図ってきました。



多くのPCモニタが並ぶ
現在の予報現業室
(札幌管区気象台)



予報業務の根幹となっている
スーパーコンピューター
(写真は令和6年3月から運用している第11世代
東京都清瀬市に設置されている)

近年、自然災害が相次いで発生しており、地域における防災対応力の向上が重要となっています。このため、各地の気象台・測候所が、地方公共団体や防災・航空の関係機関と一体となって、災害に備えた平時の取り組みを進めるとともに、災害時には、速やかに危機感を共有し、ホットラインの実施やJETT派遣などを通じて、災害対応を支援しています。



平時には自治体の防災担当者など
との懇談を通じて
「顔の見える関係」を構築



災害時には、JETT(気象庁防災対応支援チーム)を派遣して、気象等を解説

